

「社会に開かれた教育課程」と地歴・公民科

北海道高等学校教育研究会地歴・公民部会長

(北海道札幌英藍高等学校長) 中坪俊博

平成から令和になり、高教研の研究主題も「北海道の新たな時代を拓く高等学校教育の創造」と改定されました。地歴・公民部会は昨年、6年ぶりに新学習指導要領に対応するため研究主題を「広い視野に立ち、主体的に生きる資質・能力を育む学習指導の工夫・改善」に変更しましたので、今年度も継続してまいります。新たな時代にも通用する研究主題であると自負しています。

さて、新学習指導要領の完全実施まであと3年（令和4年）と迫る中、各学校においては、それに向けた教育課程編成の準備が急ピッチでなされているものと推察いたします。特に「総合的な探究の時間」の先行実施や令和2年から始まる「大学入学共通テスト」が喫緊の課題となっていますが、今年度に入って柴山文科大臣は「新しい時代の初等中等教育のあり方について」を中教審に諮問しました。

今回の諮問は、Society5.0時代に活躍できる人材の育成の観点から、そのような時代に向けた学びのあり方・求められる人物像に対し、世界トップレベルの学力水準の維持や全国学力・学習状況調査での学力の全体的な底上げ、大学や産業界等との連携や地域社会の課題解決に貢献する一部高校の教育活動等、現行教育の成果を挙げる一方で、①高校生の学校外での学習時間の減少や学習意欲の乏しい生徒の顕在化、②約7割の高校生が通う普通科の中に、いわゆる文系・理系の科目のうち大学受験に最低限必要な科目以外について生徒が真剣に学ぶ動機を低下させている状況といった現行教育の課題とのギャップが背景にあることは間違いありません。

検討を依頼した内容でとりわけ話題になっているのは、①生徒の学習意欲を喚起し能力を最大限伸ばすための普通科改革など学科のあり方、②いわゆる文系・理系の類型にかかわらず学習指導要領に定められた様々な科目をバランスよく学ぶことや、Science、Technology、Engineering、Art、Mathematicsの5つの領域を重視し、現実の問題を解決に導く力や今までにないものを創造する力を育むSTEAM教育の推進です。

文理分断からの脱却がどのように検討され、普通科改革がどのような方向で答申されるのか、これから注視していかなければなりません。なんとなく私たちが現役生徒の頃に受けていた教育課程に戻るようなイメージがあるのは私だけでしょうか。

これらの状況を踏まえ、時代を切り拓く子供たちには新学習指導要領の下で、①文章を正確に理解する読解力、②教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、③情報や情報手段を主体的に選択し活用していくために必要な情報活用能力、④対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力、の4つの力を育むことが必要とされています。

また、令和4年には成人年齢が18歳に引き下げられます。知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性の資質・能力の3つの柱をバランスよく育み、「何ができるようになるのか」といったコンピテンス基盤型教育の拡充が新学習指導要領の主眼となっています。

地歴・公民科は眼前の高校生を将来、健全な消費者として生活することができ、健全な主権者として選挙で一票を投じることができるようにする使命があります。そして、「社会に開かれた教育課程」の根底は、社会をより善くしていく人の育成にあると考えます。

新しい時代の地歴・公民教育のあり方について、一緒に研修に励みましょう。

●令和元年度(2019年度)高教研地歴・公民部会役員一覽

役 職		氏 名	学 校 名
部 会 長		中 坪 俊 博	札 幌 英 藍 高 校
副 部 会 長		阿 部 孝 則	市 立 札 幌 藻 岩 高 校
		佐 々 木 光 晴	恵 庭 北 高 校
		林 正 憲	野 幌 高 校
監 事		小 林 孝	石 狩 南 高 校
		木 部 悟	北 広 島 高 校
運 営 委 員	世 界 史	榊 原 康 文	市 立 札 幌 大 通 高 校
		菊 池 真 哉	札 幌 英 藍 高 校
	日 本 史	岩 間 洋 之	札 幌 啓 成 高 校
		安 藝 宏 和	札 幌 北 陵 高 校
	地 理	鈴 木 良 伸	札 幌 月 寒 高 校
		吉 井 優 紀 彦	札 幌 東 陵 高 校
	現 代 社 会	伊 藤 慎 也	野 幌 高 校
		吉 川 敦 巳	札 幌 東 高 校
	倫 理	渡 邊 昭 博	札 幌 手 稻 高 校
		倉 部 英 利 子	大 麻 高 校
	政 治 経 済	鎌 田 大 介	札 幌 東 高 校
		下 川 欣 哉	岩 見 沢 西 高 校
事 務 局	局 長	谷 尊 仁	札 幌 英 藍 高 校
	次 長	秋 川 英 俊	
	局 員	原 田 宏 明	
		北 村 智 弘	
		横 平 麻 紀 子	
		森 下 貴 秋	
		遠 藤 秀 人	
		飯 田 恵 利 子	

●令和元年度高教研地歴・公民部会(教科別集会)のご案内

～ネットワークをつくり、授業力を高めましょう！～

1 研究主題

(1) 令和元年度地歴・公民部会研究主題

「広い視野に立ち、主体的に生きる資質・能力を育む学習指導の工夫・改善」

(2) 平成30年度専門部(分科会)研究主題

ア 世界史：課題を見出し、主体的取組を促す授業・評価の工夫・改善

イ 日本史：日本史教育の今日的課題と、深い学びへと結びつく学習指導と評価の工夫・改善

ウ 地理：新教育課程における地理教育の創造と、授業実践を通じた学習指導の工夫・改善

エ 現代社会：現代社会教育の今日的課題と授業・評価の工夫・改善

オ 倫理：他者と共によりよい社会の形成を担う人間を育てる倫理の授業展開

カ 政治経済：公民としての資質・能力を育成する「政治・経済」学習指導の工夫・改善

2 期 日 令和2年1月9日(木)

3 会 場 北海道札幌英藍高等学校

〒02-8053 札幌市北区篠路町篠路372番地67 TEL 011-771-2004

4 内 容 (時間帯は予定)

9:00 9:30 10:20 10:30 12:30 13:30 15:30 15:50

受付	開会式 総会 各研究会紹介 【体育館】	休憩	講演 (分科会ごと) 【会場は当日案内】	昼食	研究発表・協議 (分科会ごと) 【会場は当日案内】	閉会式
----	------------------------------	----	----------------------------	----	---------------------------------	-----

5 講演・研究発表・司会・記録の依頼 分科会運営委員が依頼します。ご協力をお願いします。

6 交通機関 本校は駐車場が狭いため、運営者・講師以外の駐車はお断りします。

また、近隣に駐車場がありませんので、公共交通機関でお越しください。

(1) JR学園都市線「拓北駅」北口から 徒歩18分

(2) JR学園都市線「あいの里教育大駅」から中央バス「あいの里・篠路線(22)」・「あいの里教育大線(麻24)」英藍高校下車

(3) 地下鉄南北線「麻生駅」・JR学園都市線「新琴似」下車「麻生バスターミナル」から中央バス「あいの里教育大線(麻24)」英藍高校下車

(4) 札幌駅前(東急前)から中央バス「あいの里・篠路線(22)」英藍高校下車

7 研究紀要57号の執筆依頼

(1) 教科に関することで、25,000字以内(25文字×1,000行)です。

(2) 申込みは、令和元年8月21日(水)までに事務局(札幌英藍高校)へ論文概要を送付してください。

なお、執筆のための研究調査経費を地歴・公民部会から一部補助することができます。詳しくは事務局にお問い合わせください。

●令和元年度地歴・公民科 各種研究会(夏の研究会)のご案内

～互いに学び、情報交換して、夏に教科指導力を高めましょう！～

研究会名称	北海道高等学校世界史・日本史研究会		
会長名	橋本達也(北海道科学大学高等学校長)	事務局長	今井一吉
事務局	北海道札幌真栄高等学校	札幌市清田区真栄 236-1	TEL 011-883-0465
	期日	令和元年7月27日～28日	会場
			北海学園大学 7号館
			参加料
			2,000円
夏季研究会 のご案内	7月27日(土)		
	11:30～12:00 開会式、総会		
	12:10～14:00 全体講演・討議		
	演題 「ボーダーヒストリーと歴史教育—周辺地域から考える」		
	講師 岩下明裕氏(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター)		
	14:10～16:35 パネル①「北海道と沖縄から歴史教育を考える」		
	報告①「ビザ無し渡航の経験が高校生に与えたこと」		
	報告者：本間靖章氏(北海道札幌北陵高等学校) 北海道根室高等学校卒業		
	報告②「沖縄における世界史・歴史教育」		
	報告者：藤波 潔氏(沖縄国際大学)		
	コーディネイター：近藤健一郎氏(北海道大学)		
	橋本 雄氏(北海道大学)		
	7月28日(日)		
	9:00～11:30 パネル②「歴史総合・探求科目の実施に向けて—探求型の授業例・歴史総合担当教員の養成」※1～3のいずれかにご参加ください		
	パネル②-1「「歴史総合」「探求科目」の実際の実施に向けて」(北海道企画)		
ワークショップ「植民地の記憶をどう授業に反映するか—北海道の事例から」			
報告1 「満州国の記憶を教室での授業に活用する」			
吉嶺茂樹氏(北海道有朋高等学校)			
報告2 「市立札幌大通高等学校の実践から」			
石川麻紀子氏(市立札幌大通高等学校)			
報告3 「函館中華会館と樺太植民地」			
小川正樹氏(函館ラサール中学・高等学校)			
パネル②-2「新しい歴史教育と教員養成(第5部会・大阪大学企画)」			
報告1 「学習指導要領改訂等の新たな教育課程に対応した教員の養成・採用・研修の一体的改革の推進に向けて」			
赤間幸人氏(北海道教育委員会)			
報告2 「大学における「歴史総合」実践成果と課題」			
池上大祐氏(琉球大学)			
報告3 「世界の大学の歴史教育の比較研究から」			
桃木至朗氏(大阪大学)			
猪原達生氏(大阪大学大学院)			
パネル②-3「歴史教育の高大連携から考える大学入学者選抜の改革」(第4部会企画)			
報告1 「変わる高校歴史教育と大学入学者選抜」			
鈴木 茂氏(名古屋外国語大学)			
報告2 「新センター試験を見据えて—試行テスト問題の分析」			
日本史 宮崎亮太氏(関西大学中・高等部)			
世界史 五十嵐 学氏(筑波大付属高校)			
11:40～12:10 全体会			
(以下希望者のみ)			
13:30～17:00 巡検(北海道博物館・北海道開拓の村のいずれか)			
懇親会：7/27 18:30- 北海学園大生協 会費3,000円			

研究会名称	北海道高等学校地理教育研究会		
会長名	埴 浩 伸 (北海道白糠高等学校長)	事務局長	佐久間 直 樹
事務局	市立札幌新川高校	札幌市北区新川5条14丁目1-1	TEL 011-761-6111
夏季研究会 のご案内	期 日	令和元年8月1~2日	会 場 上富良野町・美瑛町
			参加料 11,000円 (宿泊含む)
<p>研究主題「防災・減災への教材化」～地域を学び、生かす授業づくりのヒント～</p> <p>8月1日(水)</p> <p>12:40~ 集 合 (上富良野町社会教育総合センター)</p> <p>13:00~ 開 会 式</p> <p>13:10~ 講 演・巡 検 (安政火口・十勝岳温泉)</p> <p>8月2日(木)</p> <p>9:00~ 9:50 巡検(十勝岳望岳台シェルター)</p> <p>10:20~12:40 巡検(砂防ダム群、旧日新尋常小学校跡、開拓記念館、土の館)</p> <p>12:30~ 閉 会 式</p>			

研究会名称	北海道高等学校政治経済研究会		
会長名	佐々木 光 晴 (北海道恵庭北高等学校長)	事務局長	藤 倉 水 緑
事務局	市立札幌清田高等学校		TEL 011-882-2818
夏季研究会 のご案内	期 日	令和元年8月2日(金)	会 場 札幌市男女共同参画センター (エルプラザ)4階中研修室
			参加料 2,000円
<p>○テーマ</p> <p>「北海道の未来を担う高校生のために、私たちは今、何ができるか」</p> <p>9:50~10:10 開会式・総会</p> <p>10:20~11:20 講 議 1</p> <p>演 題 「新テストについて」</p> <p>講 師 芝 谷 康 平 氏 (ベネッセコーポレーション)</p> <p>11:30~12:00 講 議 2</p> <p>演 題 「『覚える』から『考える』へ～公民科授業デザインのパラダイムシフト」</p> <p>講 師 川 瀬 雅 之 氏 (札幌市立北翔養護学校長)</p> <p>13:00~14:00 講 議 3</p> <p>演 題 「これからの社会で求められる力」</p> <p>講 師 山 田 マナミ 氏 (リクルートマーケティング)</p> <p>14:10~16:10 講 演</p> <p>テーマ「北海道の地方自治・高校生に伝えてほしいこと」</p> <p>講 師 照 井 誉 之 介 (江差町長)</p> <p>16:20~16:30 学習会報告・教材紹介</p> <p>16:40~ 閉 会 式</p>			